令和３年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修　研修レポート抜粋

（誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります）

県央会場

科目　④子どもの発達理解

◆　私の勤める学童クラブでは、時折、小学校を卒業し、中学生、高校生へと成長した元クラブ利用児童が支援員のもとを訪れ、近況の報告をしたり、不安なことや心配なことを相談したりという姿が見られます。「発達とは、胎児期から老年期までの生涯続く過程である」というお話を聞き、児童期に多くの時間を共に過ごす放課後児童支援員は子どもたちの発達、成長に大きな影響を与え、また、支えになる存在なのだと実感することができました。

◆　子どもについての研修を受けるのは初めてで、知っているようで知らないことが多く、子どもの各時期の成長、接し方の重要さを知った。これからも子どもたちと接するにつれて、大人の責任・役目をもっと意識する必要があると感じた。資料や教材に限らず、講師の藤田洋子先生が現場で実際に子どもたちから言われた言葉もあったように、子どもたちから学ぶこともたくさんあるのだと思った。子どもと向き合うこと、時間を大切にしていきたい。

◆　「発達」というと、赤ちゃんをはじめとして、色々なことができるようになり成長していくという、主に子どもの時期のことだと思っていましたが、発達とは、豊かな心情・意欲・態度を身につけ、新たな能力を獲得する質的な変化であり、生涯続く過程であることが分かりました。また、発達には個人差があるので、一人ひとりの心身の状態を把握しながら支援を行ったり、それぞれの良さや、見えないところにもしっかりと目を向けていきたいと思いました。

◆　小学生の資質、能力の育成において“どう社会と世界と関わるか”は、まさに学童において大切なことだと思った。学童クラブでは学年を越えて遊ぶ中で様々なことを学ぶことができる。子どもたちにとっては「社会そのもの」かもしれない。そこで協調性、社会性を身につけるために子どもたちなりに必死に何かを学んでいるのかもしれない。そう思うと、子どもの話をじっくり聞く・ほめる・「頑張っているのを見てるよ」という姿勢が大切なんだと思う。

◆　子どもの発達についてまだまだ勉強不足だと感じていましたが、今回の研修で子どもをより理解できたと思いました。社会性の発達についての内容では、放課後児童クラブはたくさんの子ども同士のコミュニケーションでたくさん学べる場だと思いました。全て理解するのは難しいですが、子どもにとって経験が発達につながるので、もっと子どもたちに寄り添って成長の手助けができたらいいなと思いました。